





001 健

No.	読書日 2009年	タイトル	著者 出版	表紙	コメント	評価
1	0522-0526	庵堂三兄弟の 聖職	真藤順丈 角川書店 1,575円		<p>藤堂家は代々、遺体から象牙の如くあらゆる加工品を作り出す「遺工」を家業としている。長男は亡父の跡を継ぐが能力に限界を感じつつある。次男は家業を嫌い家を出たが普通の社会生活に馴染めないでいる。三男は汚言症・暴走癖を持って余しながら長男を手伝っている。父親の七回忌を目前に三人が集まり、時を同じくして難しい依頼が舞い込み、思わぬ事件まで勃発する。</p> <p>「悪魔のいけにえ」の家族を連想するがおどろおどろしいところは無くスプラッター映画のごとく死体を扱っているのに死の臭いが無くホラー大賞を取ったのにちっともホラーっぽくない。</p>	
2	0530-0603	わくらば追慕抄	朱川湊人 角川書店 1,785円 (800円)		<p>昭和事件簿「わくらば日記」の続編。三十年代を舞台に病身でいつも床に伏せているが人や物から過去の記憶を読み取る力を持つ姉。但し、連続する映像が得られる訳ではなく一こま一こまが脳裏に浮かぶだけ。この映像を頼りに身の回りで起きた事件を解決してゆく。今回は姉以上の能力を持つ女が現れ敵対する。</p>	
3	0608-0609	利休椿	火坂雅志 実業之日本社 1,785円 (図書館)		<p>NHK大河ドラマの原作者として知名度が上昇中の作家。史実に基づき著名人の頭角を現す前のエピソード、歴史の分岐点に関与した人物をなりきり視点で描く連作短編。最初に名前を出さないで途中で分かるか最後に分かる仕掛けになっている。歴史時代小説に興味湧く好きな作品。</p>	
4	0615-0620	駅とその町	眉村卓 実業之日本社 1,325円 (図書館)		<p>眉村卓はSFジュビナイルの作家として高校時代はよく読んだ。駅の開発により寂れてゆく町と発展してゆく町に起きる土地神とSF的な現象を地元の取材記者が追う。中途半端なストーリーで面白くない。</p>	

5	0621-0624	ツイス	広瀬正 集英社文庫 750 円 (図書館)		広瀬正は自分がSFを卒業する頃、頭角を現した遅れてきたSF作家。星新一や小松左京より年長だが早世。この作品を含め掲載の 6 作品は絶版作品の復刻版。ツイスはドイツ音階の一つ。ある都市でツイスが一部の人に聞こえ始め人が住めなくなる騒音のレベルまで引きあがる過程を科学的に構築した長編作品。パニックものとも言える。解決の章は肩透かしの決着。
6	0627-0629	片想い	東野圭吾 文春文庫 800 円 (図書館)		読み終わって「片想い」の題名が単純なものではないことが分かる作品。女性偏見、同性愛、同一性傷害、両性具有の悩みを持つものの心情がよく描けている。
7	0630-0630	サンタのおばさん	東野圭吾 文藝春秋 1,400 円 (図書館)		「片想い」の中に出てくる女性差別を表現するために使われた作中作品を具体的に作家自身が書き上げたもの。作品の中では国ごとにサンタがおり欠員になったサンタを補充する際に女性であることで反対される物語。地理的なもの、国の事情で衣装の色、形状、乗り物まで多士済々なのに女性であることで反対される差別の不合理を訴える作品となっている。
8	0630-0630	トキオ	東野圭吾 講談社 1,800 円 (図書館)		難病で若くして死んだ息子(トキオ)が過去にタイムスリップして父親の窮地を救う時空もの。定職を持たず自堕落に生きていた若かりし日の拓実(父親)の前に現れたのが青年トキオ。トキオは出生を隠し拓実と共に行方不明になったガールフレンド(母親)の救出に乗り出す。父と子の絆、拓実と実母の関係を描き拓実の成長物語になっていてありきたりながら読後感が良い。
9	0701-0704	タイムマシンのつくり方	広瀬正 集英社文庫 780 円 (図書館)		広瀬正はタイムマシンやタイムパラドックス、パラレルワールド作品を専門と言える程多くの長編、短編、ショートショートを手がけておりこれはそれらの作品をまとめた作品集。昭和初期から 30 年代を舞台にしたものが多いので時代の雰囲気味わえる。

10	0710-0714	T型フォード殺人事件	広瀬正 集英社文庫 700円 (図書館)		この作品は題名どおりSFものではなく推理小説。フォードは自分の地元の鶴見で作られていた時代があるのと外国映画ではフォードが出てくる古典映画が多いのでフォードの記述部分は興味深く読んだ。
11	0721-0724	1Q84 Book1	村上春樹 新潮社 1,890円 (0円)		cacco氏からDGチョイスで回ってきた本。村上春樹の作品を読むのは初めて。訳のわからないものを書く作家の印象を持っていたがこの本を読んだ限りではかなりのストーリー・テラーであるという印象を持った。冒頭のつかみがよく作品に引きずりこまれる。本筋の他いろいろな小ネタをはさみ読者の興味をそらさない工夫がしてある。疑問の湧くネタもあるが1Q84の世界に引き込むための振りだったりする。タイトルは小説の舞台の1984年と関連し、ふとしたことから入り込んだ違う世界を区別するために命名した年号。作品は2巻を終え多くの謎を残し、主人公たちの行く末が解決していない
12	0725-0728	1Q84 Book2	村上春樹 新潮社 1,890円 (0円)		タイトルの付け方から言っても10-12月、1-3月が続くことが考えられ続きを読みたい気はするがちゃんとした結末が書けるのか懸念している。
13	0731-0802	図書館の神様	瀬尾まいこ ちくま文庫 525円		バレーボールのキャプテン経験がある女性教師は大学生の時、チーム仲間のミスを厳しく叱りすぎて自殺に追い込んでしまい地元を離れ教師となる。受け持った部活の顧問は図書部。元々体育系なので不満たらたら。部員も男子がたった一人。だがこの部員、実はスポーツの能力も高いが今は文学に傾倒している。異色のコンビの会話のやりとりが自然体で時に意表をつき次第に打ち解けていくのもほのぼのしてまあまあ面白く読めた。
14	0804-0806	日日平安	山本周五郎 時代小説文庫 600円 (0円)		TICAちゃんから借りてきた本。遠い昔に読んでいるはずでこの本はリニューアル版。日々平安はご存知「椿三郎」の元になった作品。こちらの主人公はズルさも持ち合わせていてスケールも小さい人間。周五郎らしいといえば周五郎らしい。やっぱり黒澤明に大喝采。

15	0809-0811	配達あかずさん	大崎梢 創元推理 文庫 651 円		同作家の書店シリーズ。前作「平台がおまちかね」は出版社の営業部員が主人公だったが今回は書店の店員が主人公。変わった客の対応、事件を店員・アルバイトの女の子が解決する。
16	0813-0815	魚釣島奪還作戦	大石英司 中公文庫 660 円		正直言って期待はずれ！ もう少し魚釣島の抱える諸問題が書き込まれているのかと思ったら。ひそかに魚釣島に潜入した中国の民間兵士から自衛隊が国際問題にならぬようひそかに奪還する話。双方が使用する武器についてリアルな書込みがあり興味うい引いた部分もあるが「魚釣島」のタイトルに釣られてしまったという感じだ。
17	0818-0823	フェイク	楡周平 角川文庫 700 円 (0 円)		若くして銀座の一流店指名No.1のママと店の新米ボーイが組んで詐欺を行うストーリーそれぞれの人間関係、客の取り合いなど複雑に絡み諸問題が起きるが切り抜けて一応大団円の決着となる話。思った程のスケール感がなくやるのが小さい。主人公とその仲間も風格に欠けるのが面白くない原因。
18	0825-0827	街の灯	文春文庫 北村薫 500 円		昭和初期を舞台に上流階級のお嬢様が探偵役。コンビは女性ながらお抱え運転手の別宮、つけられた仇名がベッキーさん。実は武芸・拳銃の腕前は名人級でひそかに拳銃を隠し持ち護衛の役目もしている。お嬢様の推理に対し何気ない質問、会話で解決のヒントを与え一風変わったワトスン役をしているのが異色。時代の雰囲気心地が良い。作品中に当時の小説、映画名が出てきて楽しいタイトルはチャップリンの「町の灯」で事件解決のヒントにもなっていて収録三篇のうちの一つ
19	0828-0902	マイナス・ゼロ	集英社文庫 広瀬隆 800 円 (横浜中央図書館)		広瀬正の作品の中では好きな作品。「夏への扉」の香りが微かに感じられるタイムスリップもの。時代は昭和初期から戦前戦後のディテールを丁寧かつ自然に読めるよう書いてあるので今読んでも古びようが無い。

20	0901-0901	ダブル・ジョーカー	柳広司 角川書店 1,575 円		<p>「ジョーカー・ゲーム」の単行本化第2弾。前回同様5つの連作短編集。「野性時代」にほぼ隔月で掲載されているが今最も待ち遠しい作品。史実を交え、当時の世相、文化風俗をも書込みスパイもの・ミステリーを構築しているところが面白い。書き込まれた何気ない描写さえもピースとなつてかつちり嵌るジグソーパズルのような作品・</p>	
21	0904-0906	鏡の国のアリス	集英社文庫 広瀬隆 800 円 (横浜中央図書館)		<p>冒頭、ノーベル物理賞を取った朝永信一郎の鏡のしくみの引用がつかみとして面白い。銭湯の湯船に浸かりうとうとしていた男。気が付くと女風呂の浴槽に浸かっている男風呂と女風呂の位置が逆になっていることに気付く。銭湯の主人に見咎められ警察に連れていかれるが気付けば右と左がすべて逆転している。戸惑う主人公と逆転の世界がどうなるか丁寧に書き込んでいて面白い。</p>	
22	0907-0909	玻璃の天	文春文庫 北村薫 500 円		<p>前掲の「街の灯」に続く文庫化第2弾。タイトル含む3作の短編を収録。作品の舞台は戦前の昭和初期。掲載した広瀬正の6作品と時代が重なっているため作品の雰囲気こそ違えその時代の景観、風俗文化はかぶっているところが多く両方読んでみるのも面白いかも。</p>	
23	0910-0915	エロス もうひとつの過去	集英社文庫 広瀬隆 800 円 (横浜中央図書館)		<p>広瀬正復刻の最後の一冊。この本、題名で随分損をしている。6作品のなかで一番タイトル的に興味が湧かなかった。読んでみるとエロスなど感じられない。大歌手、橋百合子が37周年リサイタルを前に振り返った過去の選択一。もしもあの時の「もうひとつの過去と」現在の世界をフラッシュ・バックさせながら二つの人生を作品にしたもの。昭和初期の雰囲気たっぷりの作品で「マイナス・ゼロ」に登場する家族を作品内に取り込む遊びも加えているので先に読むのが肝要。最後はミステリーゾーン的な軽いオチが用意されている。</p>	